

powered by 秋田銀行

《秋田県内特化型》就職・転職ポータルサイト

キャリピタ AKITA

秋田の企業からオファーが届く。



AKITA

6月1日、「キャリア採用分野」サービス開始!
～あなたしくいられる秋田で働く～

「キャリピタAKITA」は、魅力ある県内企業を発掘・発信。

あなたにピッタリの仕事が秋田で見つかる!

くわしくは キャリピタAKITA 検索! <https://www.caripita-akita.com>

2022年5月31日現在

BIC
Business Information Center
AKITA

491
2022.06

本誌は、賛助会員への配布となっております。購読を希望される場合は、上記までお申し込みください。



BIC AKITA

Business Information Center

2022 vol.491
06

[ビックあきた]
公益財団法人
あきた企業活性化センター



経営探訪 [北日本コンピューターサービス株式会社]
「三位一体」。
ユーザーニーズに応え、
100年続く企業へ。

- 04 センター活用事例
[合同会社ビューティナ]
[株式会社共進]
- 06 商標とれたて
[有限会社梅屋]
- 07 主催事業報告
- 08 経営サブリメント
- 10 お知らせ

経営探訪 [北日本コンピューターサービス株式会社]



「三位一体」。 ユーザーニーズに応え、100年続く企業へ。



秋田市の「北日本コンピューターサービス株式会社」は、昭和44年の創業。コンピューターの黎明期から、全国の地方自治体を支えるシステム開発を行ってきた企業だ。

デジタル庁が設置され、DX(デジタル・トランスフォーメーション)が推進されるなか、秋田を拠点に、長きにわたりデジタル分野で自治体に携わってきた企業のこれまでとこれからを、代表の江畑佳明氏に伺う。

全国ナンバーワンの生活保護システム

同社の代表的なものに「生活保護システム『ふれあい』」がある。昭和56年、秋田県の打診により開発が始まり、それまで電算化されていなかった生活保護に関するシステムを、県とハード面を担う企業との3者でゼロから構築していった。完成品は厚労省からの高い評価を受け、現在、552もの自治体で運用され、全国ナンバーワンのシェアを誇っている。



代表取締役
江畑 佳明 Ebata Yoshiaki
〒010-0013
秋田市南通築地15-32
TEL.018-834-1811
<https://www.kitacom.co.jp/>
◎設立 / 1969年5月19日
◎資本金 / 1,000万円
◎売上 / 46.9億円(令和3年9月期)
◎従業員数 / 240名
▶システム開発▶運用支援
▶システムソリューション

突き詰めることで生まれる広がり

最近では、AIを用い自社開発した「ふれあいコンシェルジュ」と言うサービスにも力をいれている。ユーザーからの問い合わせに対して、応える側がより的確な情報を伝えるためのシステムだ。

過去に問い合わせのあった事項を集約し、AIによりスマートに最適な答えを導き出す。これを導入すれば、これまで新入社員が4~5年かけて培い、導き出してきた回答を、ベテラン同様に時間をかけずに伝えることも可能となる。

これらのシステム普及に至る背景には、作る、売る、支えるの「三位一体」という考えがある。たとえニッチな分野であっても、徹底してユーザーニーズに応え突き詰めていくことで、結果として、どの自治体にも求められるサービスとして広がっていくのだ。

新拠点「C-CUBE」誕生

現在の営業拠点は、秋田市の本社のほか、仙台、さいたま、大阪、札幌、福岡の5つ。すべて、地方自治体のユーザーサポートを担う機関だ。

そして、今年1月、本社屋の向かいに「C-CUBE」という施設が誕生した。デジタル庁が設置され、これからは地方自治体の業務やデータがクラウドで管理されることになるが、ここは、そのクラウドシステムのデジタルサポート、電話サポートを行う拠点であり、DXの中核を担う場となる。

セキュリティ管理も万全。
安心を
サポートしています。



スタジオでは
オンラインでユーザーとの
やりとりもしています。



1階にはスタッフの休息や来客とのミーティングのできるサロンを設置。心地よい環境のもと業務が行われている。

全国がデジタル化へ躍進するなか、江畑氏の考えは兼ねてから変わらないという。

「目指すのは、企業の永続性を担保し、これから100年続く企業を作ることです。そのためには、ユーザーの満足度、社員の満足度を上げて、社格、魅力を高めることが大切だと考えています」。

その言葉のとおり、先代からの「男女の区別なし」の考え方のもと、子育てをしながらの在宅勤務、男性社員の育児休暇の実施など、働きやすい環境が整えられており、「あきた子育て応援企業」「地域未来牽引企業」にも選ばれているほか、女性活躍推進企業認定「えるぼし認定」も受けている。

「魅力がある会社には、新しい血が入ってくる。そう信じています」と江畑氏は語る。

同じ悩みを抱える女性たちへ。 美肌と整体のサロンがオープン



!POINT

さまざまな
アドバイスを受けながら
店舗オープンへ



合同会社 ビューティナ (店名:美肌整体ビューティナ)

代表社員
堤 千詠子 Tsutsumi Chieko
〒011-0943
秋田市川尻御休町6番14号
TEL.090-5357-3450
<https://beautina.hpteraichi.com/>

美肌整体ビューティナ式素肌再生術

今年3月、秋田市にオープンした女性専用サロン「美肌整体ビューティナ」。美容と健康は重なり合うもの。ハーブによる美肌効果と、その効果をより高めるために、東洋経絡リンパ療法を取り入れ、その人が持つ本来の美しさを引き出していくというもので、ここではこれを「美肌整体ビューティナ式素肌再生術」と銘打ち、提供している。

新たな美のサポート拠点、オープン

「私はもともとニキビ肌で悩んでいて、これまであらゆる治療を受けてきたのですが、40代になっても効果が出ず、肌を見せたくない思いから人と目を合わせて話すことすら苦手っていました。それでも諦めずに探し続けた結果出会ったのが、ハーブによる美肌施術法でした」。そう話すのは、代表の堤千詠子氏。

自分に合ったものに出会い、自信を取り戻すことができた堤氏は、自身と同じような悩みを抱える人々に、自己肯定

感を取り戻し幸せになってもらいたいという思いから、2018年、自宅にサロンをオープン。2021年には法人化し、新たに店舗を構えることを決意した。

「店舗開設に向けて、届けたい技術や思いはあるものの、何から始めたら良いのかわからない」。そんな堤氏を支えたのがセンターの存在だった。物件探しの段階から相談し、専門家派遣による店舗改装の方針策定支援、PRツールや情報発信、ビジネスモデルなどへの構築のアドバイスを受けながら店舗オープンにつなげ、現在は商標登録に向けても進行中だ。

まだスタートしたばかり。まずはその存在を知ってもらうことから取り組んでいるが、店舗を構えたことで新規顧客も少しずつ増え、悩みを抱え来店した方からの満足度も高い。ゆくゆくはブライダルに向けてのトータルケアも目指していくという。秋田の女性たちの心身の健やかさ、美しさを支える確かな拠点となっていきそうだ。



▶活用事例 専門家の派遣

企業が抱える経営課題に対し、センターに登録されている各種分野の専門家を派遣し、診断・助言を行います。
[お問い合わせ] 総合相談課 TEL.018-860-5610

▶活用事例 産業デザインに関する助言・知財の総合支援窓口

産業デザイン、製品開発、マーケティング等についての専門的な助言やデザイナーとのマッチング、コーディネートを支援します。
特許や商標などの出願や活用に対する相談に対応するため知財総合支援窓口を設置しております。
[お問い合わせ] 知財・デザイン支援課 TEL.018-860-5614

生産管理システムの刷新で、 さらなる効率化をはかる



!POINT

原価の算出方法や
目標利益率の設定などが
明確化されました



株式会社 共進

代表取締役
齋藤 利浩 Saito Toshihiro
〒018-0400
にかほ市象潟町字中谷地34-12
TEL.0184-43-5044
FAX.0184-43-2754
<http://www.kyoshinss.co.jp/>

日本の産業を支える小さな部品

にかほ市にある「株式会社 共進」は、金属部品の精密加工メーカー。5/1000ミリ、1/100ミリなどの、「超」が付くほど小さな部品を手掛け、毎月、じつに3000種もの部品が製造されている。

「どんな企業の部品でも図面さえあれば作ることができる」というのが同社の強み。薄物切削加工を得意とし、多品種・少量加工、納期短縮などにも対応が可能なため、試作や開発段階から各企業のニーズに寄り添ってきた。

主な取引先は、同市に工場を持つTDKや、電子部品の包装機械メーカー東京ウェルズなど。日本を代表する産業は、共進の高品質な部品によって支えられていると言っても過言ではない。

原価、時間、利益を把握できる現場へ

昭和51年の創業から実績を重ね、47期を迎えた同社だが、昨年より、生産管理の見直しを図っている。

その一つとして行ったのが、原価計算の適正化だ。セン

ターの専門家派遣事業を活用し、指導を受けることで、これまで担当者によってばらつきのあった原価の算出方法や目標利益率の設定などが明確化された。

また、センターの生産性向上支援事業を活用し、アドバイザーの指導のもと現場の動線の見直しを図った。これにより、これまで機械の使用後は入力のために離れた場所にある端末までそれが移動していたが、見直し後は各セクションごとに最小限の移動での入力が可能となった。

「加工業では、それぞれの作業時間がそのまま製品の単価に影響します。一つの部品にかけられる時間を一人ひとりが把握したうえで製造に向かい、スムーズにできる方法を考えることがさらなる利益につながっていくと考えています」と、代表の齋藤利浩氏。

現在、以前のシステムから新規のものへ移行中で、ここから一年かけて基盤づくりをしていくという。信頼の製造実績に効率化も加わることで、さらなる業務の充実が期待される。



▶活用事例 専門家の派遣

企業が抱える経営課題に対し、センターに登録されている各種分野の専門家を派遣し、診断・助言を行います。
[お問い合わせ] 総合相談課 TEL.018-860-5610

▶活用事例 生産性向上への助言

製造現場の生産性向上を目的に、生産改善アドバイザーによる現場カイゼンの助言等で支援します。
[お問い合わせ] 取引振興課 TEL.018-860-5623



商標とれたて



民謡、祭りが数多くある秋田において欠かせない、箏、三味線、太鼓などの和楽器。秋田市にてその販売、修理を担ってきた梅屋楽器店が、このたびロゴマークの商標出願を行い、欧州で商標権を取得した。和楽器が世界中に鳴り響く、その第一歩が踏み出された。



コロナ禍での打撃を受けながらも、自社YouTube「梅channel」にて和楽器の魅力やメンテナンス方法を発信することで通販での売り上げ拡大につなげている。

有限会社 梅屋（梅屋楽器店）



代表取締役
梅原 久史 Umehara Hisashi
〒010-0001
秋田市中通6-4-23
TEL.018-837-6151
FAX.018-837-3791
<https://umeya-gakki.com/>

「変わることこそが、守ること」 世界へ響け、和楽器の音色。

外からみた和楽器の魅力

創業89年となる仙台の和楽器店「梅屋」のれん分けとして、秋田市に梅屋楽器店が誕生したのが平成5年。代表の梅原久史氏が19歳のころだった。ゆかりのない土地に裸一貫で乗り込み、修理や販売、教室、イベントなどを通じて着実に顧客の信頼を育んできたが、現在、国内での和楽器の需要は高齢化し、飽和状態にある。

そこで着目したのが国外への展開だ。近年は日本人の国外移住の増加も著しく、自店の越境専用ECサイトを通じて和楽器の需要の向上も実感している。

「国外の方には、和楽器を通じて日本人以上に日本ならではのスケールや間を感じていただけているようですし、ピュアに楽器として楽しんでもらえているように映ります」と梅原氏。

世界の「umeya」への第一歩

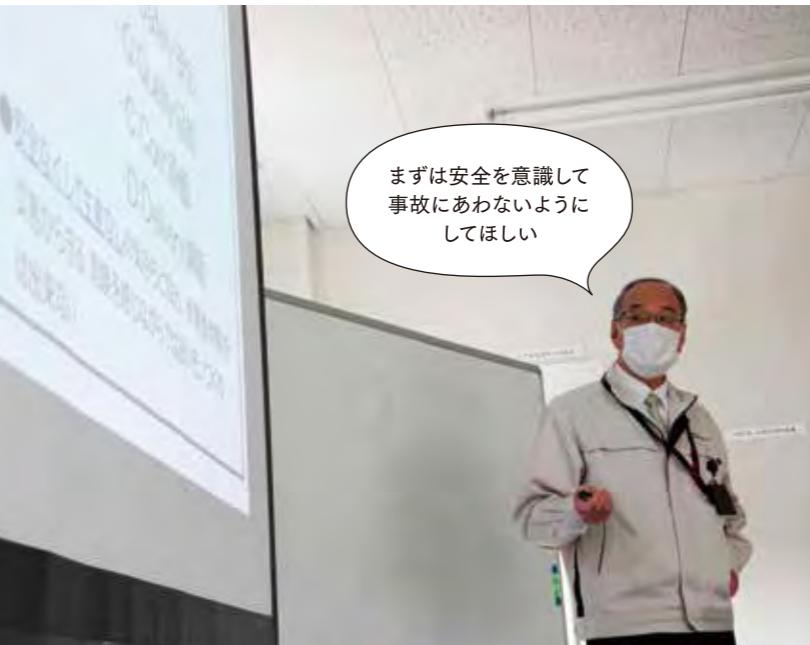
国外への展開として、現在、元々交易のあったドイツにエージェントを設置し販路を拓げているが、欧州では、ブランドの信頼の証として商標登録が欠かせない。そこで、センターの知財窓口支援や弁理士のサポートを受けながら、「umeya」のロゴマークの商標出願を行い、このたび、国内、国外（欧州）ともに登録に至った。ここから、このロゴをもってさらなるブランド認知を図り、ゆくゆくは欧州以外の国への展開も目指していく。

「和楽器業界では商標登録の前例がなく『そんなことしてどうなる？』という声もありましたが、伝統楽器を扱うなかで、私は『変わることこそが、守ること』だと考えています。変われば変わるほど、原型を極めることにもつながっていく。そして、国外で火が付くことで日本にも新たな動きが起こせるかもしれません。そのために、これからも突き抜けていこうと思っています」。

主催事業報告 品質・安全管理セミナー出前授業



自動車メーカーで品質管理に38年間携わったプロによる「品質」と「安全」の基礎を学ぶセミナー



令和4年4月27日、秋田市のユーティーケー工業株式会社で、当センターの上林プロジェクトマネージャー（PM）が講師を務める「品質・安全管理セミナー」の出前授業を開催した。上林PMはトヨタ自動車東日本株の品質管理部で38年間品質管理に従事した経験を活かし、当センターのPMに就任以来8年間にわたり、企業向けセミナーの開催をしている。これまで県北、県央、県南の3会場で参加者を募りセミナーを開催していたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、県内企業から要請があった場合に企業へ出向き個別のセミナーを開催することにしている。ユーティーケー工業株式会社ではこの機会を活用し、入社1、2年の若手社員を中心に7名がセミナーを受講した。品質と安全の基礎知識を習得するため、品質管理を担当する部署以外の社員も参加しており、受講者は熱心にメモをとっていた。



講師を務めた上林PMはセミナー内で「品質管理の基本は検査を厳重に行うことではなく、工程を良い状態に維持・管理することである。」と述べた。また、新入社員の受講者から「講義内容のうち新入社員として最初に取り組むべきことは何か？」という質問を受けた際には、「製造に関することを覚えることも重要ではあるが、まずは安全を意識して事故にあわないようにしてほしい。」と説いている。

今後も品質・安全管理セミナー出前授業は自動車関連産業への参入やビジネス拡大を希望する企業を対象に申し込みを受付している。

【お問い合わせ】
取引振興課 TEL.018-860-5623 Mail. jidosya@bic-akita.or.jp

テーマ

『風通しの良い職場環境づくりのために、できること』

～ハラスメント防止とコミュニケーション力向上～



1 ハラスメントのない職場づくりのために。

2022年4月1日から『パワーハラスメント防止措置』が中小企業の事業主の方にも義務化されました。『ハラスメント』の防止・対策を行うことが義務化される、という事ですから、社内での整備を整えている企業の方も多いことでしょう。『ハラスメント』について学び、正しい知識を習得することによって、日常の行動や態度を見直すきっかけになればと思います。ハラスメントは「しない、されない、させない」職場環境づくりが大切です。

2 様々なハラスメントの例

ハラスメントを行った方が告発された場合、「そんなつもりはなかった。」「それがハラスメントだとは思わなかった。」という方が多いそうです。

ハラスメントは「無知と無自覚」から起こる場合が多いです。

以下、職場で起こることの事例です。

▶パワーハラスメントの事例

ミスを繰り返す部下への指導として、過去に自分がされた指導方法をそのまま実行してしまう方がいます。厳しい叱責、暴言、改善点と一緒に考えることなく突き放す、無視する、など。

※部下を育成したいという「目的」に対して、「手法」が間違っています。

他の育成手法を学ぶ必要があります。感情の管理も必要です。

▶セクシャルハラスメントの事例

職場内で異性に対し、性的な冗談やからかいを言う、仕事と関係のない私的なメールを何度も送る、食事やデートへの執拗な説いをする、必要なない身体接触等の行為です。

※「それは職場で必要な言動ですか?」という視点で見てください。

ON(職場・公的な空間)とOFF(私生活)の線引きをしっかりと意識することが必要です。

パワハラは上司から部下、だけではなく、部下から上司、の場合もあります。

セクハラは、男性から女性、女性から女性、女性から男性、の場合もあります。



PROFILE

株式会社ビィ・ウィズ

中安 留美 Nakayasu Rumi 秋田市出身。仙北市角館町在住。

主な経歴

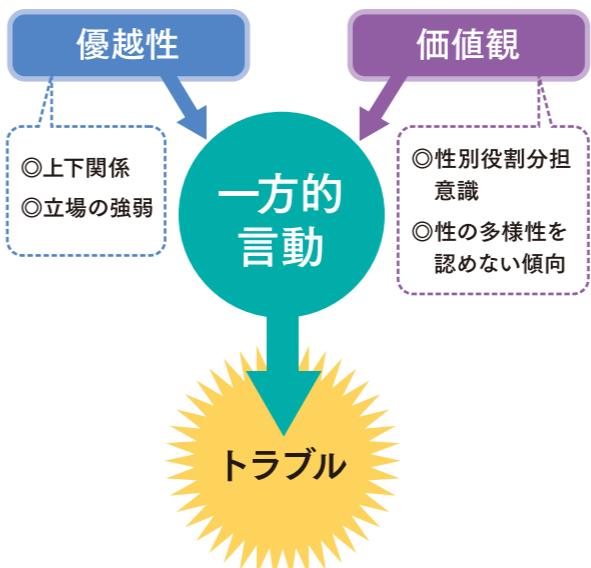
2003年秋田県・秋田市の誘致企業であるコールセンターへ入社。社内の研修を担当後、グループ会社の教育研修事業部の設立に携わり、全国の企業などで様々な研修を担当。2018年、秋田市で「地元密着型研修専門会社」株式会社ビィ・ウィズを起業。主に秋田県内の自治体、企業、団体などで「組織の課題を解決」する研修事業を展開中。リピート率は80%を超え、地元の研修会社として事業を拡大中。

3 価値観をアップデートしましょう。

世の中の流れに無頓着だったり、一緒に働く仲間に對しての思い込みや先入觀が強い場合、価値観は過去のまま硬直してしまうことがあります。自分の価値観は時代とともにアップデート(更新)していくましょう。

▶ハラスメントは「一方通行」

▶コミュニケーションは「双方向性を持つ」



4 社内のコミュニケーション力アップについて

▶あいさつは全てのコミュニケーションの入り口です。

▶コミュニケーション力をアップさせるには、相手への思いやりや共感(敬意)がベースにあることが大切です。

▶話すことよりも「聴くこと」が大切です。聴き上手になります。

▶コミュニケーションは長さよりも「頻度」が大切です。日常の中の短い「やり取り」を意識しましょう。

▶「雑談力」を磨きましょう。話の“引き出し”に何が入っていますか?

例)気候、趣味、グルメ、スポーツ、健康法、休日の過ごし方、ペット等。

▶「おうむ返し」と「質問力」で会話は続きます。

例)月曜日の朝、あなたは部下に話しかけます。「○○さん、おはよう!なんだか日に焼けたね。」

部下「はい。昨日は友人達とサッカーの練習をしました。」

×あなた「そうですか。それは良かったね。」⇒会話は終了します。

○あなた「サッカーを練習したんだね。毎週練習しているの?」⇒会話は続きます。

※実際にやってみると難しいのが「おうむ返し」です。相手の言葉を繰り返すには、しっかりと聴くことが重要です。

ハラスメントが起きない職場環境とは、コミュニケーションがうまくいっている職場です。

コミュニケーション力は誰でも、いつからでも伸ばすことができる能力です。

働く全ての人が、安心して、活き活きと自己の能力を発揮できるような職場環境を目指しましょう。

あきた中小企業

みらい応援ファンド

県内中小企業者等が、高度技術又は新製品の開発、高度技術を利用した製品の高付加価値化、生産工程の合理化、地域資源の開発等を図るため、県内の大学、工業高等専門学校又は公設試験研究機関と連携して共同研究を行う取組を支援します。

事業区分	対象者	助成率	助成限度額
高度技術産業集積地域型	高度技術産業集積地域(秋田市)に主たる事業所・事務所を有する中小企業者等	3/4以内	300万円
一般地域型	高度技術産業集積地域(秋田市)以外に主たる事業所・事務所を有する中小企業者等	2/3以内	250万円

募集期間 令和4年 6月23日木～8月4日木

事業期間 助成金交付決定の日から1年以内

応募方法 募集要項・申請書等を当センターウェブサイトから

電子データを入手し、ご確認ください。(https://www.bic-akita.or.jp/)

応募前に内容を確認しますので、ウェブサイト上の募集要項・注意事項をご覧いただき、事前相談申込書を御提出のうえ、締切2週間前までに事前相談を受けてください。

[お問い合わせ・申請先] 設備・研究推進課 TEL.018-860-5702 FAX.018-860-5612 E-Mail:setsubi-ken@bic-akita.or.jp



特許・意匠・商標の外国出願に係る経費の一部を助成します。

外国出願補助金

募集中

募集期間 [第1回] 募集中:締め切りは6月17日(金)まで

[第2回] 第1回公募の採択数・内容によって

募集の有無を決定します。China

対象者

秋田県内に事業所を有し、自ら出願人となり、外国特許庁へ特許等を出願する中小企業者

助成対象 経費 外国特許庁への出願に要する経費、現地代理人や国内代理人、翻訳費用に要する経費等 ※詳細は募集要項をご確認の上、ご相談ください。

助成率 助成対象経費の2分の1以内
※助成対象者以外の方との共有に係る特許等である場合、持分比率に応じた経費が対象となります。

1出願あたりの 上限額 特許:上限150万円、意匠:上限60万円、商標:上限60万円
※1企業あたりの助成上限額は300万円

[お問い合わせ・申請先]
知財・デザイン支援課 TEL.018-860-5614 FAX.018-863-2390

▶詳しくは、センターHPをご覧ください。https://www.bic-akita.or.jp/event/268.html



食品製造事業者対象

あきた 食品事業マネジメント力講座

受講者
募集中

講座内容 3つのテーマに合わせて合計18講座を用意しました。
ぜひふるって御参加ください。

1 マーケティング・販売戦略

7/5 木 7/26 木 8/23 木 9/13 木

◎食品表示基準 押さえるべきポイント

◎展示商談会の成功のポイント

◎新商品開発の留意点 ほか

2 製造マネジメント

7/21 木 8/25 木 9/8 木 10/5 水

◎工場運営の基本とコスト構造の理解

◎製造品質の理解

◎食品安全マネジメントとHACCP

◎工場改革プランの策定 ほか

3 競争力強化

10/20 木

◎設備導入による競争力強化

◎バリューチェーン発想での競争力強化

受講料
無料

各テーマ20名程度

主催 秋田県
観光文化スポーツ部 食のあきた推進課 食品工業班
TEL.018-860-2224 FAX.018-860-3878

運営事務局 秋田県中小企業団体中央会
事業振興部 工業振興課
TEL.018-863-8701 FAX.018-865-1009



詳しくはこちらから

食品製造事業者対象

生産性向上フォーラム
&個別相談会参加
無料

開催日時 令和4年 6月27日月

場所 ANAクラウンプラザホテル秋田(旧秋田ビューホテル)
会場とWEBによるハイブリッド方式で開催します。

対象者 県内の食品製造事業者

定員 40名(会場)

こんな方におすすめ!

今後のために、業務や成果の見える化を進めたい
人手不足のため、デジタル技術を使って作業効率をあげたい

HACCPの紙伝票を電子化したい
生産性を上げたいけど、どうしたらいいの?

他社がどうやって生産性を上げているのか知りたい
みなさまの御参加をお待ちしております



第1部 生産性向上フォーラム 13:15~15:20

株式会社日本能率協会コンサルティングから基調公演と、秋田酒類製造株式会社から事例紹介をいただきます。

第2部 先進技術活用相談会 15:30~17:00

個別のブースを設け、みなさまのAI、IoT導入などの相談に応じます。

お問い合わせ／申請先 観光文化スポーツ部 食のあきた推進課 食品工業班

TEL.018-860-2224 FAX.018-860-3878 E-Mail:shokusan@pref.akita.lg.jp



詳しくはこちらから